

放送日： 平成 20 年 9 月 16 日
タイトル： インプラント治療について
担当者： 医師 田中 克弥

こんにちは。公立甲賀病院 歯科口腔外科の田中克弥です。今日はみなさんも一度は耳にしたことがあると思います、インプラント治療についてお話します。

歯を失うと歯以外にもさまざまなものを失うことに気づくでしょう。たとえば、自然に微笑むことができなくなったり、りんごやたくわんなどが食べにくくなったり、はっきりしゃべれなくなったり、歯や口がいつも気になり不快に感じることもあるでしょう。

もちろん、歯を失ったことで生じる影響は人によりさまざまです。どの場所の歯を失ったかによっても異なってきます。また、歯の頭の部分だけが無くなった場合と歯の根の部分も無くなった場合でも異なってきます。

一生自分の歯で食事を楽しみたいというのは、多くの人の願いです。しかし、実際には虫歯や歯周病で何本かの歯を失う人が多いのも事実です。歯が痛くなったり、歯を失ったりすると歯科医院を受診し治療を受けます。歯の頭の部分だけが無くなった場合は一般的にかぶせ物の治療を行います。歯の根の部分も無くなった場合は一般的にはブリッジと呼ばれる失った歯の両端の歯を支えにして失った部分を補うかぶせ物を行うか、入れ歯を装着します。場合にもよりますがそれぞれにメリット、デメリットがあります。ブリッジの場合は、失った歯の両端の歯が健康な歯であっても削る必要があります。また支えとなる両端の歯や、その周辺の歯ぐきに負担がかかるため多数の歯を失った場合はできないというデメリットがあります。入れ歯の場合はそのもの自体の違和感や安定性・審美性の問題や取り外しの面倒くささや咀嚼時の歯ぐきの痛さなどのデメリットがあります。

インプラント治療は、より自分の歯に近い形で歯を修復する方法として注目されています。インプラントとは、簡単にいえば歯の土台となるチタンでできた人工歯根のことで、その人工歯根を顎の骨に植え込んで人工の歯をかぶせ噛めるようにするのがインプラント治療です。

インプラント治療のおおまかな流れをお話します。レントゲン、CT撮影や模型などによる検査を行い、診断を行います。手術は局所麻酔で行います。歯ぐきを開いて顎の骨にインプラントを埋め込み、開いた歯ぐきを閉じて縫い合わせます。これが一次手術です。インプラントと骨をしっかりと結合させる為に、3～6ヶ月は期間をおきます。次に歯の頭の部分を取り付ける準備をします。これが二次手術です。この場合も術後1～6週間おきます。その後に歯の頭の部分を装着し、噛めるようになります。

このように治療は決して短期間でできるものではありません。また、骨に植え込むために十分な骨の量がない人や重度の糖尿病患者は行うことができませんし、感染などによりインプラントが骨にしっかりと結合せず脱落してしまう場合もあります。しかも、保険適応がないため治療費も高額になってしまいます。

いずれにしても歯科医とよく相談を行い、治療法や価格など十分理解し、納得した上で治療を行う必要があります。